

その後いがかお過ごしますか？プロジェクト



## おおだの森保護事業者会



対応してくれた人の名前 : 会長 浅井 董亮  
 調査員 : 唐澤晋平、蜂須賀 功  
 レポート作成者 : 唐澤晋平  
 取材日 : 2016年12月12日(月)  
 取材場所 : おおだの森 クラブハウス

## 活動内容(「山村再生担い手づくり事例集」より)

旧額田町の故郷の森ともいえる「おおだの森」が、燃料革命後の薪炭林の利用低下で手入れが不十分な雑木林に変わってしまった。第二東名高速道路のインターチェンジの設置が決まり、檜山町が玄関口にあたるので、シンボルとしておおだの森の整備が取り上げられ、行政トップの要請で活動が開始された。現在は、有志がサクラとカエデを植栽する活動を月2回の頻度で行うようになっている。その他、イベントとして4月の第2週に花見の会、新年に初日の出を見る会を開いたり、研修会として他事例を見学に行ったりしている。会員数は53人、現地作業は15名から20名程度。

## 前回の取材後、どのような変化がありましたか？

- ・月2回の定例活動は継続して行っている。植林のほうは一段落して、年に30~50本くらいになってきた。今年も市制100周年記念で桜を植える。維持管理が大変で、桜は陽樹なので支障木や下草刈りに手間がかかる。
- ・活動が継続できていることを誇らしく思う。メンバーは楽しいから参加してくれる。物理的には何も無くても、精神的に満たされるものがある。学校の先生も、おそらくお偉いさんだったと思われる人も、おばちゃんも、みんなでワイワイやるのが面白い。
- ・毎日のように登りに来る常連さんもいるし、週末には親子連れも来る。岡崎市内で整備されていて見晴らしのよい山は少ない。感想ノートを置いているが、良いコメントがどんどん増えて嬉しい。
- ・初日の出イベントの参加者は毎年増えており、今年は400人以上参加した。若い人も結構来てくれる。毎回山頂で豚汁やコーヒー、お汁粉を振舞うが、今年は初めて品切れになってしまった。
- ・今年から岡さんぽ(岡崎商工会議所等が中心となって仕掛けている岡崎の街歩き企画)で山歩きを実施している。初回は急なキャンセルもあり参加者は少なかったが、喜んでもらった。今後も実施して行く予定。

## 前回の取材時の課題は解決に向かっていますか？現在の課題は何ですか？

- ・おおだの森は50haほどあり、70人くらいの山主から借りているが、相続して代替わりしたら桜の木を切って元に戻してほしいという人が出てきた。何とか収まったが、今後そういった意見が出てくるのが心配。活動に理解をいただくためにイベントの案内を山主にもまめに出すようにした。
- ・新しい参加者は時々入ってくる。はじめはメンバーが知り合いの人を連れてきたり、岡崎市の広報だよりを見たりして、その後も継続して来てくれる方がいる。それでもメンバーは60代以上が中心なので、若返りが必要。範囲が広くて手が回りきらない。もう1団体あっても良いくらい。
- ・獣害に困っている。食べられたり枝が折られてしまう。いろいろ試したが、柵で植林した範囲をぐるっと囲ってしまうのが一番効果的。時々シカが中に入ってしまうがそれほど問題でないレベル。ただし柵に引っかかってそのまま死んでいるものもいて、そうなると片づけが大変。ただし、環境学習に来る子どもたちにはサル・シカ・イノシシも自然の一部であって悪者ではないんだと伝えている。
- ・お客さんに対してもっとアカデミックなことを話せるようになっていきたい。自分たちで桜の研究をしてみたい。

山村再生担い手づくり事例集の活用に関するアイデアがありましたら教えてください

自分も昔恵那に住んでいたのが懐かしく思う。今度むらさきかん(岡崎市東部地域交流センター)で近くの地域で活動している団体の交流会が企画されているが、そういう機会があると他の団体とも交流しやすい。

## 写真



クラブハウスにて語る浅井会長。前日の活動で使ったチェーンソーのメンテナンス中だった。



登山道沿いに植えたカエデも大きくなり、紅葉が楽しめるようになってきた。



回収された獣害対策用のネット等。